

第 154 回日本ユネスコ国内委員会教育小委員会の報告

1. 日時: 令和6年8月 22 日(木) 13:00～15:00(オンライン開催)

2. 各議題における主な議論

議題1. 最近のユネスコ関係の動きについて(教育分野)

事務局から、第 219 回ユネスコ執行委員会の結果、及び 2024 年 1 月以降に開催された国際会議と今後予定されている国際会議等について報告。

委員からは、ユネスコの教育戦略に質の高い教育を提供するとあり、何年もかけて取り組まれているが、重要なのはこれらの努力が具体的な行動変容にまでつながっているかという点、との発言や、昨年 11 月に採択された新しい教育勧告の国内における対応状況について質問があった。

議題2. 令和5年度ユネスコスクール活動調査結果等について

ユネスコスクール事務局(ユネスコ・アジア文化センター)から、標記調査結果について報告。その後、鈴木委員長・大濱委員から、地域のユネスコ協会とユネスコスクールの連携事例を紹介。委員からは主に以下の提案があった。

- ・地域社会(地元の企業や大学)との協働を促進することで、ユネスコスクールを地域で支え、活発に活動できる体制をつくる必要性
- ・ユネスコスクールと大学の連携事例は、実際は多数あるので、大学側からも情報発信をしていくことの重要性

議題3. 令和5年度ユネスコスクール定期レビューの結果について

ユネスコスクール事務局(ユネスコ・アジア文化センター)から、定期レビューの結果について報告。委員からは主に以下の提案があった。

- ・各学校で自己評価をする際は、子どもたちの声も反映すること
- ・レビューに参加する負担感を減らす方法を検討すべきとの提案
- ・校長等管理職の意識啓発も重要

議題4. ユネスコ ASPnet 新システム稼働後のユネスコスクール・キャンディデートの扱いについて

事務局から、ユネスコ本部で運用する ASPnet 新システムが 9 月以降稼働予定であり、本システムが正常に稼働し全てのキャンディデート校の加盟手続きが完了した場合には、「ユネスコスクール・キャンディデート」の仕組みを終了する旨を説明し、了承された。

以 上

第12回日本ユネスコ国内委員会科学小委員会の報告

1. 日時: 令和6年9月4日(水) 16:30~18:00 (オンライン開催)

2. 各議題における主な議論

議題1. 最近のユネスコ関係の動きについて(科学分野)

(1) 政府間海洋学委員会(IOC)分科会からの報告

道田委員から、6月の第 57 回 IOC 執行理事会における議論を中心に、国内外における「国連海洋科学の 10 年」に関する取組を含め、IOC に関する動きについて報告。道田委員が IOC 議長として複雑な利害が絡む中で難しい議事運営を円滑に遂行し各国から評価されていることが指摘され、IOC 議長としての貢献のビジビリティを高めていくことについて発言があった。

(2) 政府間水文学計画(IHP)分科会からの報告

沖委員長から、6月の第 26 回 IHP 政府間理事会における議論を中心に、2025 年に IHP が 50 周年を迎えることを含め、IHP に関する動きについて報告。河川から海への栄養・汚染物質やプラスチックの流入等の課題における IHP と IOC、さらには MAB も含んだ連携の可能性について発言があった。

(3) 人間と生物圏(MAB)計画分科会からの報告

事務局から、7月の第 36 回 MAB 計画国際調整理事会における議論を中心に、2025 年に中国・杭州で開催予定の世界会議で新たな MAB 戦略が策定される予定であることを含め、MAB 計画に関する動きについて報告。OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)への貢献等、企業との連携の可能性について発言があった。

(4) その他の科学分野のユネスコ活動に関する報告

大野委員及び事務局から、ユネスコ世界ジオパーク及びニューロテクノロジーの倫理に関する勧告の策定に向けた議論について報告。ユネスコ世界ジオパークの再認定審査の状況やジオパークの運営への女性の参画に関して質疑が行われた。

議題2. 地域ユネスコ協会における科学分野の取組について

押谷委員、小池委員、鈴木委員、高木委員から、各地のユネスコ協会の取組を紹介するとともに、民間のユネスコ活動は専門家の取組と市民を繋ぐコミュニケーターの役割及び地域コミュニティにおける SDGs と科学を結びつける役割を担っていること等について発表。民間ユネスコ活動の持続可能な発展のための課題や更に広めていくための広報の在り方等について質疑があった。

以 上

第11回日本ユネスコ国内委員会文化・コミュニケーション小委員会の報告

1. 日時: 令和6年8月27日(火) 10:00~11:30 (オンライン開催)

2. 各議題における主な議論

議題1. ユネスコ「世界の記憶」アジア太平洋地域委員会総会について

事務局から、5月にモンゴル国・ウランバートルで開催された標記総会において、ユネスコ「世界の記憶」アジア太平洋地域登録の審議が行われたこと等を報告。委員からは、我が国から地域登録への申請案件がなかったことを踏まえ、良質な候補案件をプールしておく仕組みの創設が必要であるとの提案があった。

議題2. 第46回世界遺産委員会について

文化庁から、7月にインド・ニューデリーで開催された標記委員会において、世界遺産一覧表への記載に係る審査及び資産の保全状況に係る審査が行われ、我が国が推薦した「佐渡島の金山」が新たに登録されたこと等を報告。その後、ウクライナの資産に関する世界遺産委員会での議論について質疑が行われた。

議題3. ユネスコ創造都市ネットワークと創造都市ネットワーク・日本・国際ネットワーク部会との連携等について

事務局から、標記両団体の連携強化に向けて、初の取組として、両団体の年次会合を丹波篠山市にて合同開催する予定であること等を説明。また、2月の小委員会で意見が相次いだ、マンガ・アニメをユネスコ創造都市の8つ目の分野として追加することについて、ユネスコの担当事務局長補に打診した結果、当面新規の分野追加は難しいとのことであり、既存の分野(文学又はデザイン)の一部として取り扱うのが相当であること等を説明。

委員からは、文学等の分野でマンガ・アニメを軸とするまちづくりを行う都市の加盟を進めることで、マンガ・アニメの世界的な存在感を高めていくべき等の意見があった。

議題4. 岡山市におけるユネスコ創造都市ネットワークの取組について

昨年10月、新たに文学分野でユネスコ創造都市ネットワークに加盟した岡山市より、創造都市としての活動状況や今後の展望等について説明。委員からは、同市が作成した広報動画への賛辞や、マンガの扱いに関する質疑があった。

以 上